

第23回全日本中学生都道府県対抗11人制ホッケー選手権大会

【レギュレーション (TD 通達)】

1. 大会運営 本大会の運営は、(公社)2022年度版日本ホッケー協会競技運営規程並びに第23回全日本中学生都道府県対抗11人制ホッケー選手権大会実施要項による。
2. 競技規則 2022年度版(公社)日本ホッケー協会ホッケー競技規則による。
3. 競技時間 試合時間は、ノンストップ制。
前半20分・後半20分とし、前後半の間に5分間の休憩をおく。
但し、交流戦は、前半15分・後半15分とし、前後半の間に5分間の休憩をおく。
※競技運営上、クォーター制の導入をしない。
4. 試合管理 試合時間は、当該試合TOが管理する。但し、前・後半終了間際に与えられたペナルティーコーナーは、規定の試合時間が終了しても中止されることはなく、それが完遂するまで続けられ終了したときは、アンパイアのホイッスルをもって規定時間の終了となる。
5. 競技方法 (1) 全試合トーナメント方式によって実施する。尚、1回戦(初戦)の敗者同士による交流戦を行う。
(2) 規定の時間内に勝敗の決しないとき、試合終了後「6.」に定めるSO戦を行い、勝敗を決する。但し、交流戦においては、勝者を決定しなければならない試合を除いては、SO戦を行わない。
6. シュートアウト戦(SO戦) ※ 詳細は、2022年度版日本ホッケー協会競技運営規程を参照
※試合終了後にSO戦を行う場合は、試合終了後5分以内に開始しなくてはならない。
(1) 両チームの監督は、レッドカードによる退場処分を受けている選手を除いた、エントリー済みの選手の中から5名の選手と1名のゴールキーパーを指名する。
(2) 両チームの主将によりトスを行い、先攻・後攻を決める。その後両チーム5名ずつの選手により交互に攻防を1巡行い(計10回)、得点の多いチームを勝者とする。
(3) (2)の方法によって勝敗の決しない時は、「サドン・デス方式」、すなわち両チームが同数の攻防を行った中で最初にリードしたチームを勝者とする方式により、再SO戦を行う。この時は、ゴール数が同じであった場合、選手はプレー不可能な者を除き各チーム同じ選手により先攻後攻を入れ替え、以降のSO戦を行う。ただし、順番は変えてもよい。
7. 試合の中断と再開
天候等やむを得ない理由により、試合が中断された場合は、下記によって試合を再開する。
(1)再開の試合の場合は、中断した時の得点で残りの時間のみ試合を行う。
(2)再開の試合の期日・競技場・審判員等は、これを変更することができる。

(3)その他の事項についてはTDの判断により決定する。

8. チームベンチ

1チームの編成は、監督1名、コーチ1名、手当てをする者2名（大会開始日に20歳以上）、選手22名以内とする。

チームベンチには、スターティングリストに記載された者以外は入ることはできない。（但し、中学校部会申合せ事項およびTDの許可を受けた者はこの限りではない。）

尚、「選手」「スタッフ（監督・コーチ）」「手当者」は、登録証（写真添付）を持参してベンチ入りすること。

※選手は1～22の番号をユニフォームの定められた場所に明示する。

※エントリーの際、各都道府県の男女チームの監督を兼ねることはできない。監督とコーチの兼任は可とするが、男女それぞれのチームでJHAのチームスタッフ登録を済ませていること。尚、チームの監督またはコーチのどちらかは、日本スポーツ協会のコーチ3以上の資格を有するものであること。また、手当者もJHAチームスタッフ登録を済ませること。チームベンチには、スターティングリストに記載された者以外は入ることができない。（但し、学校長、ベンチには入れない3年生等、TDの許可を受けた者はこの限りではない。このことは監督会議で確認する。）

9. フィールドへの立ち入り

(1)試合中は、当該審判員・試合に出場している選手以外は、誰もフィールド内に入ることはいできない。但し、当該審判員の許可を得た者は、フィールド内に入ることができる。

(2)試合中、選手に怪我等が起こった場合は、スターティングリストに明示された手当てする者の中から1名と監督の最大2名が、当該審判員の許可を得てフィールド内に入場することができる。フィールドに入場している間は、選手に対してコーチングをしてはならない。

10. 選手の交代

(1)選手の交代は、その試合にエントリーされた者の中から選ばれる。

(2)各チームは、試合中随時どの選手でも交代できる。但し、ペナルティーコーナーが与えられている間は、誰も交代できない。（負傷した守備側のゴールキーパーは除く）

(3)選手の交代は、何回行ってもよい。

(4)一時退場させられた選手に対する交代は、当該選手の退場時間中は許可されない。

※今大会、グリーンカード警告のみ、イエローカード3分 or 6分。

(5)選手の交代は、テクニカルテーブル前方のセンターライン付近で行われる。その際、時間の停止は行われない。ただし、ゴールキーパー及び負傷者の交代については、審判員の管理下で行われる。

11. 確認事項

(1)今大会では選手・スタッフは、IDとして、「会員証一括印刷」により印刷をした顔写真入りの会員証を各自または各チームで準備したネックホルダーに入れ、常に首からかけておくこと。

(カラーまたは白黒印刷は問わない。)

(2) 今大会では「スターティングリスト」を試合開始45分前までに本部に提出すること。

★試合開始15分前に、「次試合テント」で待機する。次試合テントでは、競技役員により選手確認、リングパス、服装・装具の点検を行う。

(3) ペナルティーコーナーで使用する保護具は試合開始前に事前に当該試合 TO に使用確認すること。尚、怪我を防止するため、フェイスマスク等の使用を奨励する。その際、使用する保護具に感染予防のための共用を避けるため使用者を特定する印や名前などが明示されているかについての確認も行う。(コロナ禍における特別ルール)

(4) 各チームのプレーヤーは正規の番号をつけ、大会期間中は変更できない。

(5) キャプテンは、上腕部、肩、ソックスの上部のいずれかに必ずキャプテンマークをつけること。

(6) ロングスパッツ、アンダーシャツについては、中学校部会での申合せ事項を優先する。

※ロングスパッツは禁止、アンダーシャツを着用する場合は各チームで全員が同じ仕様のものを着用しなければならない。着用と非着用の選手が混在していてもよい。

(7) ユニフォームは必ず2着用意し、試合会場(ベンチ)に持参すること。

(8) 選手は、すね当てを必ず着用してストッキングを上まであげて履くこと。膝は隠さないこと。

(9) マウスガードは必ず装着すること。(GKは義務対象外)

※「未着用届」が提出されている選手については、着用を免除する。

(10) 今大会ではフル装備のゴールキーパーを必ずおくこととする。フル装備のゴールキーパーは、怪我の防止のため装具を完全に着用すること。特にアンダーパッドは必ず装着すること。(チームの責任で遵守すること)

(11) ベンチは、[競技日程表]の左側チームがテクニカルテーブルから見て左側とする。

(12) 全試合とも「人工芝コート」で行うので、「ポイントスパイク」の使用は認めない。

(13) 試合中、乱暴なプレーや審判員に対する誹謗等、スポーツマンらしくない行為は、厳に戒める。(監督・コーチ・手当者・応援団についても同じ)

(14) 今大会において、抗議制度はない。応援者は、大会実行委員会および中学校部会の指示に従うこと。(保護者など応援者からの抗議等には一切応じない。監督は、保護者による抗議等はできない旨を事前に説明しておくこと。)

(15) 選手が負傷により、ベンチより誰か(ストレッチャーを含む)が選手の手当てのためにフィールド内に入場した場合は、その選手はフィールドを出てから試合時間で2分間以上、ベンチにエリアに留まらなくてはならない(ゴールキーパー除く)

(16) 競技中の疾病・傷害等については、大会本部で応急処置を行うが、その後の治療等はチームの責任において行うこと。〔負傷・事故報告書〕の提出)

(17) 〔負傷・事故報告書〕の提出を課せられた者は、医師による治療後、負傷・事故報告書を TO または TD に提出する。本人への健康確認の上、次試合の出場を認める。試合が無い場合は、負傷・事故報告書を大会事務局に提出(郵送)すること。

(18) 試合開始時に11名そろわない場合、試合を棄権した場合は、その試合は没収試合とする。没収試合があった場合は、相手チームの不戦勝とする。(得点は5:0で相手チームの勝利とする)

(19) 試合終了後、両チームの監督は、テクニカルテーブルですみやかに10分以内に署名すること。

(20) 監督会議終了後、「行動規範確認書」を各監督は提出する。各監督は、JHA競技運営規定付

属書の行動規範を確認しておくこと。

(21) 「第23回全日本中学生都道府県対抗11人制ホッケー選手権大会における新型コロナウイルス感染防止対応策について」に従うこと

(22) その他、本規定に定めのない事項または不測の事態が発生した場合は、TDの指示に従うこと。

12. ルール確認 《(1)~(5)2019 変更の再確認、(6)2022 修正、(7)~(8)2021 新規変更、(9)2022 追加》

(1) サークル内にある防具により、おそらく入っていた得点が防がれた場合→P S

(2) サークル内における守備側のFHは、従来通り反則地点のサークルトップ(14.63m 地点)に加え、サークル内のどの場所から再開することも可能。

(3) サークル付近の攻撃側FHの場合、FHが即座に行われなかった場合は、守備側選手はサークル内であってもリスタート地点から5m離れる。(常に5m 離れようとする指導を奨励)

(4) PC 完遂の条件から「サークル外に2回出る」の要件を削除。

PC 完遂 (PC 状態の解除) 要件で「ブリー」の項の削除。

(5) PC において攻撃側のフライングは、罰則としてパッサーがセンターラインに戻される。

(6) 守備者がPC用の防具を取り外す適切な機会がなかった場合、23mのエリア内にいる間、ペナルティーなしで防具を着用し続けることができる。すべてのプレーヤーは、23mのエリアから出る前、または審判から指示されたときに、すべての保護具を外さなければならない。

(7) GKの肘用防具については、覆わなくてもよくなった。

(8) ブリーによる再開方法について、スティックの平らな面を軽く1回打ち合わせる方法となる。

(9) 落下地点でレシーブしようとしている選手に対し、5mより離れた地点から近づいてボールをインターセプトすることができる。ただし、危険と判断された場合はこの限りではない。

◆試合開始時・終了時のセレモニー

《開始時》

試合開始2分前に 「テクニカルテーブル前整列」～「トス」～「テクニカルテーブルあいさつ」～「コートへ散る」

《終了時》

「センターであいさつ」～「わかれ」

※感染予防の観点から「握手」などの身体接触は行わない。

※時間短縮のため、テクニカルテーブル・相手チームへのあいさつは行なわなくてもよい。

※各チームは、試合後にベンチの消毒を行い、速やかに撤収するよう協力する。